

幼児の豊かな人間性の開発をめざす

指導計画作成についての一考察

高 橋 司

一、はじめに

指導計画の作成は、教師が行なうことを予想されている最優先に評価されている指導能力である。

幼稚園教育要領においても

幼稚園においては適切な指導を行なうために……（中略）……調和のとれた發展的、組織的な指導計画を作成しなければならぬ。

と記されている。

しかし、多くの教師が教師用指導書で、保育の実践を貫いているように思える。

なぜなら、指導計画を作成するということは、余りにも抽象的で複雑であるからであろう。

指導計画については、指導書を書いている専門家に任せているのが現状である。

教師は、自ら立案した指導計画によって保育すると、不完全さという危険を冒す恐れがあるが故に、市販の指導書に執着するのである。

倉橋惣三は、「われわれは、保育案の有効と共に危険をも知っているものである。……（中略）……保育案の危険は、よその保育案を模倣する時に殊に甚しい。各の幼稚園は環境を異にし、形態を異にしている。如何なる保育案といえども、いずれの幼稚園にそのまま適用せられるべきことはありえない。幼稚園はめいめいの保育案をもたなければならぬ。そうでないと、幼稚園というものが鑄型にはめられてしまう」と述べているが、まさに至言であるといえよう。

ワッサーマン (Wasserman, S.) によれば、指導計画の作成とは、例えば、「パン焼き」の作業の手順に比すこともできるのである。^②

。あなたは、店でパンを買い、幼児に与えることができる。

。あなたは、書店で教師用指導書を買ひ、指導書通りに幼児に与えることができる。

。どんな種類のパンが幼児に栄養を与えるのだろうか。どんなパンを作りたいと思っているのか、と自分自身に問いかけるだろう。

。どんな種類の経験が、幼児の心情に栄養を与えるのだろうか。私は、何を遂行しようと思っているのかを、自分自身に問いかけるだろう。

。小麦粉や卵やハチミツやサラダ油を手に入れ、それらをはちの中に入れるだろう。そして、ゴマの実や小麦の胚や、ひまわりの種のような調味料を加えようとするかも知れない。

● 図書や新聞や視聴覚教材、手で取り扱う資料と思考活動を入手することができる。そして、それらをクラ

スに持ち込むことができるだろう。そして、小動物やペットやマットやピアノのような補助教材を加えようとする。

。十分に疲れるまで、こねあげる。

● クラスを組織化しようとしたり、資料を配置したり、新しい資料を準備したり、時間を設定しようとしたり、あなたの頭を働かすことだろう。

。どうして、店でパンを売っているのに、そんなに一生懸命に働くのかと友達がいったとき、自分自身を疑い始めるだろう。

● どうして、教師用指導書を使うことができるのに、そんなに疲れ切るまで仕事をしているのかと、隣室の教師がいった時、また園長も、本当に幼児は学んでいるのかといった時、自分自身を疑い始める。

。生ねりの小麦粉が膨れ上るのを待っているだろう。これは、大変時間のかかることである。あなたは忍耐強く待たなければならぬだろう。

● 自主的な方法で、幼児が学習できるように仕向けるだろう。これを行なうには、大変長い時間を有するし、忍耐がいる。

。三五〇度のオーブンでパンを焼き、それが焼けている間、香りを嗅ぐことができるだろう。

● 幼児が活動の中に、意図的、積極的に参加するのを見ることができるだろう。そして、それを、幼児が活動していると感じることができるだろう。

。あなたは、解けてゆくバターが、暖く、一枚一枚のパン全てに染み出たパンを、食べることができる。暖かいバターを解かしてぬりつけて食べるだろう。一切れのパンにこつてりとぬりつけて食べるだろう。そういう具合に

したことを非常に楽しいと感じるだろう。

●あなたは、幼児が学んだことを見ることができるだろう。内容、問題解決、自主的探究、相互的な人間関係、あなたが指導したことを十分に楽しかったと感じるだろう。

これは、厳しい仕事であつた。けれど、あなたは、店で買ったパンと、手作りのパンとの違いを味わうことができる。

●これは、厳しい仕事であつた。けれど、あなたが作成した指導計画と、店で買ったもの（教師用指導書）との違いを味わうことができる。

。そして、あなたは、パンがどうしてそんなに美味しかったということを知ったのか。いうまでもなく、彼らは、それらを残らず食べてしまったからだ。一切れ残らず食べてしまつて、もつと欲しいと望んだ。

●そして、あなたが作成した指導計画が、どんなに立派なものであつたということを知ったのか。いうまでもない。彼らは、学習内容を習得して、ひとりだけでも役割遂行できるようになった。より思慮深く問題を扱うことができた。そして、幼稚園を愛するようになったからである。

このように、教師用指導書の束縛から離れた、教師の自主的な指導計画の作成は、幼児に対して、新しい興味のある、生き生きとしたものを創造することに専心するようになるのである。

この小論は、幼児の豊かな経験や活動が、自由保育や、自由遊びの活動において、どのような指導実践のもとに育成されていったかを考察することにより、幼児の豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成の方途を考察しようとするものである。

二、自由保育における指導事例

(一) かたつむりの場合

① あそび

かたつむりとあそぶ。

② ねらい

かたつむりを見たり扱ったりして親しませ、生き物への愛護の気持を育てる。

③ 環境準備

。保育室の観察台の上に、水槽を二つ、第一図のようにして置く。

。側に、水を入れた容器を置いておく。

。割箸、棒切れ、糸、紙、ハケ、竹竿を分類して置いておく。

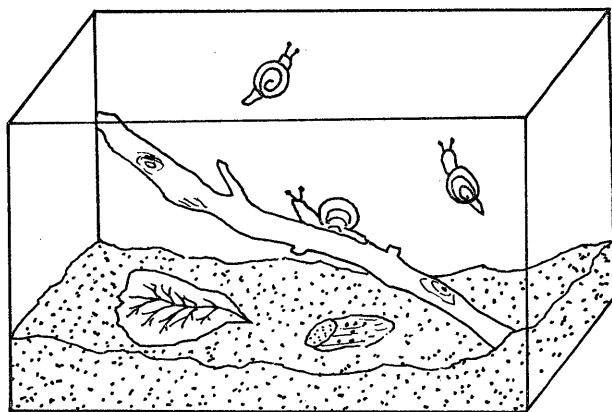
。保育室は、広く使えるように、椅子などはまとめておく。

④ 対象

四歳児・三一名

⑤ 本時までの経過

M子が、六月六日に二〇匹程かたつむりを持ってきた。小さな白い色をしたかたつむり（ニッポンマイマイ?）であった。転入の幼児であったので、友だちとの結びつきも浅く、かたつむりがつながりとなって話すようになって



第1図 キャベツ・キュウリなど入れる。砂3 cm程入れる。

た。「ちようだいね」「貸してね」「どこでとったの」など

翌々日、K男が大きなかたつむり（主に、セトウチマイマイ）を二〇匹余り持ってきた。「お母さんと一緒に取
りに行ったの。石垣のところや、木のところに行ったの」こうして、全員で遊べる機会ができた。

⑥ 保育指導記録

時刻	教師の働きかけ	幼児の活動
9:00	(部屋の中に材料用具を整えておく)	<p>。登園して持物の始末をするとすぐに、水槽のところへ行き、かたつむりを一匹とり出して遊び出す。(M男)</p> <p>。K男・M男が遊んでいるのを見て……</p> <p>。K男「あっ、ほくのかたつむりや」</p> <p>。M男「昨日これもってきたんやで」</p> <p>。K男「お母ちゃんが、みんなと仲よう遊びっていわはった」といって一緒に遊び出す。</p> <p>。大勢の幼児が寄ってきて、水槽からかたつむりを出して遊び出す。</p> <p>。K男「これ使ってもいいか」机の上の箸をみつめて尋ねる。</p> <p>。S男「先生、はっぱこんなようけたべてる」</p> <p>。A子「青虫さんも好きやで」</p>
<p>。Kちゃん、やさしいね、みんなにかしてあげてね。</p> <p>。ほんとね、かたつむりさん、きゃべつのはっぱ好きなのね。</p>		

9:50

。おもしろいことみつけたね。
。おもしろいことしているね。
。なんでそんなことしているの
。いいことみつけたね
。かわいいね

。先生にもさわらせて、ほんとに力つよいね。

。どこが似ているの。(比較ができるような助言をする)

。ほんとに目の中にたくさん赤ちゃん入ってんのかな。

(C子、D子、F子は積極的に参加せずじっとみてい
る)

。赤ちゃんのかたつむりあげようか、といって消極的な
幼児にそつとわたす。

。かわいいね

。S子「うさぎも好きやで」「人間も食べるで」
。A子「水も好きやで、水道のところ(手洗場)で遊ん
でたら、元気でできた」

。箸をのぼらせる
。棒切れを水にぬらしてはわせる
。画用紙をぬらして、その上をはわせる
。大きいかたつむりの上に、小さいのをのせて喜ぶ
。かたつむりを二つ並べて競走させる(注1)
。B子「このかたつむり力つよいで、キューとひつつい
てとれへん」

。A子「なめくじと似たところある」

。A子「ぬるぬるしてる、体がよう似てる」

。M男「なめくじは、貝がのつてへんで」

。K男「目の中にたくさん赤ちゃんがいるで」

。S男「手でさわったら体をシュッと入れるよ」

。C子、D子、F子手のひらを出して受けとる、顔を見
合わせて笑う。(注2)

。「うん」とうなづく。

。話し合いをして、次に発展させるよう導く。

積木のそばに行き□をつくり、その中に入れてあそぶ、動きをじっとみている。

(注1) 材料用具をみつけていろいろな遊びをするようになる。しかし、教師は遊び方を提示したり、誘いかけは一切してない。既習経験のみである。遊びは、友だちの遊びをみて広がる。

(注2) この頃になると、ほとんどの幼児が、かたつむりを手にして遊び出し、いろいろな会話が聞かれた。

(二) 木の実・木の葉の場合

① あそび

木の実・木の葉であそぶ。

② ねらい

。木の葉の色づきや、落葉などで、自然の移り変りに関心を持たせる。

。色、形、大きさに関心を持たせる。

③ 対象

五歳児、四二名

④ 本時までの経過

一月一日、園外保育でたくさんのどんぐりを拾い、翌日、こまを作ったり、ままごとのごちそうを作ったりする。その時から毎日のように数名の幼児が、木の葉を拾ってくるようになる。一〇日頃からは、通園門の柿の葉っぱを拾ってくる幼児が多くなる。

この機会にと思い、「ときわぎのはじまり」の話を讀んだり、「木の葉」の歌をうたったりする。二〇日前後には園庭のいちようの葉が、たくさん落ち出し、毎日のように競争しながら拾ってくる。亀の冬ごもりに使おうとし、現在でも毎日のように、一生懸命拾ってくる。

⑤ 保育指導記録

時刻	昭和五年一月二十六日	
教師の働きかけ	指導者氏名 ○ ○ ○ ○	
<p>12:15</p> <p>。机の下に落ちているいちようの葉っぱを拾い上げ、 「まあ、きれいな葉っぱ」といいながら、そおととか ごの中に入れる。</p>	<p>幼児の活動</p> <p>。M子、Y子「先生、葉っぱ拾ってくるし、ナイロンの 袋ちようだい」袋を受けとると、いさんで園庭にかけ ていく。 。M子、Y子を見て、M男、K男、H男もままごのた ごをさげて、落葉拾いに行く。 。M子、Y子、いちようともみじの葉っぱを拾って先生 にみせる。 。Y子「これ、赤ちゃんの葉っぱ」といっていちようの 葉っぱをみせる。 。M子「これみて、せんすみたいや」といっていちよう の葉っぱをみせる。</p>	
<p>12:30</p> <p>。まあ、きれいノ 。うん、かわいい葉っぱやね。</p>		

13 : 10

12 : 50

。そうね、せんすみたい。

。どうぞ、たくさん拾ってきてください。

。わあ、きれいな花束、誰の結婚式かしら。

。楽しそうやね、たくさん売ってるの、売れますか、と、
いいながら、店の様子をうかがう。

。ふうん、やっぱり大きいのは高いのね。

。M子、Y子「せんせい、もっと拾ってくるわ」

。M子、Y子「うん」

。R子、A子「先生、私たちも葉っぱ拾ってくるわ」と
かけ出す。

。R子、A子、いちょうともみじで作った花束を持って
結婚行進曲を口ずさみながら保育室に入ってくる。

。その後を保育室でままごとをしていた数名の幼児がつ
いて歩く。

。R子、A子を中心に今まで室内で遊んでいた幼児全員
で、売りやさんごっこを始める。

。どんぐり、柿の葉、かえでの葉、いちょう、もみじを
各々別々のかごに入れて売る。

。種類別に売り値を変えたり、大小でも値段を変えてい
る。

。買ったものは、ままごとのごちそうになって並べられ
る。

三、自由遊びにおける指導事例

コーウィン (Corwin. R) は、幼児の自然発生的な活動に対しての指導の事例を示している。^③

ある日、一人の幼児が、クモを幼稚園に持ってきたことから活動が始まる。

クモをみつけた幼児は、「どこでみつけたの」「どうして捕まえたの」「えさをやったの」と次々に質問をする。教師は、幼児に、クモのための小屋を作ること提案した。

すると、三人の幼児が、そのクモについてもっと知りたくなり、また、どのようにしてクモが生活しているのかを調べるために、本を探しに図書館へ行った。

そんななかで、二人の幼児が、クモのためにエサを取りに行くことについて話し合い、また、他の二人が、クモがどのような種類のものなのかについて考えた。

一人の幼児が、クモが糸をかけるのを見た経験話を話した。

教師は、起ってきた疑問と、指示された活動のリストを作成した。

三人の幼児は、本を払げてクモがどんな種類のものであるかを確認するために、クモのそばに座っている。彼らは、クモの色、足の数、目、身体の各部分、大きさについて話し合いをした。そして、更に注意深くクモを観察するために、虫メガネを取り出した。やがて、幼児のクモについての読書をもとにして、次のような結論を導き出した。

① その種類のクモは、アフリカのみに住んでいるのであるから、その種類のクモとはいえない。

② この種類のクモは有毒であるのに、わが国のクモは無毒である。

③ わが国のクモの形は非常に大型であるからその種類のものとはいえない。

小屋を作る三人は、箱を得て、一方の端を切り取り、クモの家にするために、透明なプラスチックでおおった。彼らは、クモが息をすることができるよう、空気孔の作り方について話し合った。

一人の幼児が、家にきれいな幕をもっているの、明日持ってくる」と提案した。

他の二人の幼児は、箱に入れるため二、三の小枝を拾って、運動場から戻ってきた。クモが、網を作るところにするためである。

十分に観察したあと、三人の他の幼児が、クモにエサを与えるために、二、三種類の昆虫を捕まえてきた。彼らは、クモに昆虫を与えた時に、どのようなことが起きるかを観察する計画をたてた。

教師は、ここで、手製のノートを与え、その結果を記録するよう指示した。

二週間が経過した。観察者が再び訪れた時クモの家は、完成していた。

幼児は、クモの巣を編むことが、いかに困難であるかを記録していた。環状の組織で編まれ、クモの巣が作られるということも記録していた。

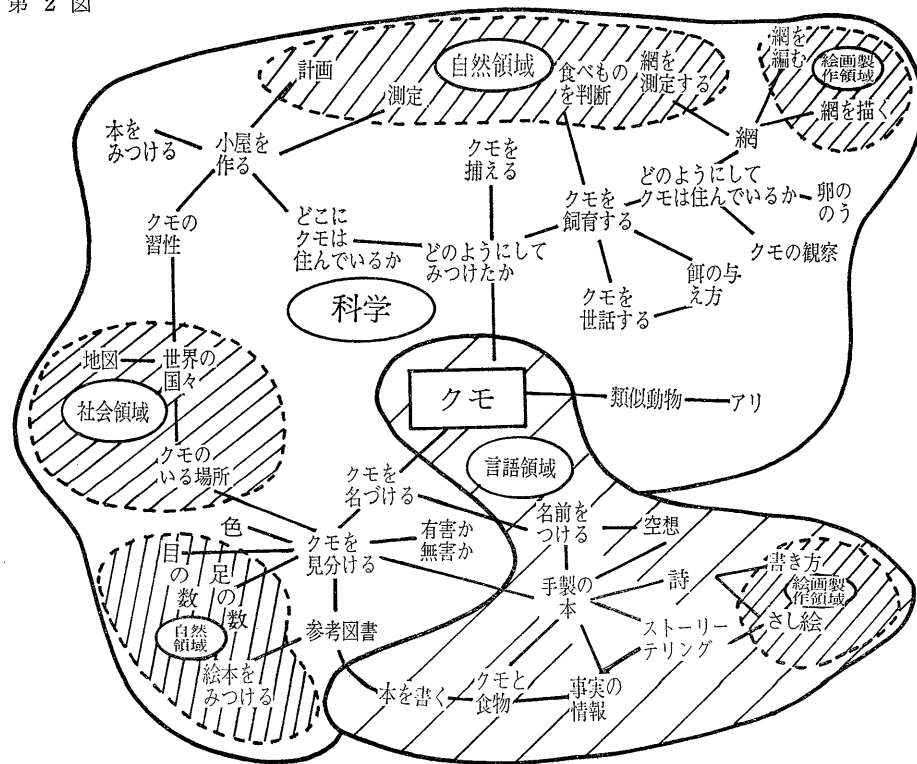
一冊のノートには、クモの食べ物の種類や量について記録されていた。図表には食べ物を見つけた、与えたりする順番が書かれていた。

誰かが、網のサイズについても記録している。そして、それを作るためにどれくらい時間を費したかも記録している。

あるグループは、ありを集め始め、ありの養殖場を作った。

以上のように、一匹のクモをめぐるさまざまな活動が観察されたのである。

第 2 図



幼児のクモについての活動は、第二図において表わすことができよう。

四、幼児の豊かな経験や活動をめざす指導過程

自由保育のなかでのかたつむりや、木の葉・木の実についての指導、自由遊びのなかでの自然発生的な活動から、クラス全体の活動へと発展させたクモについての指導は、幼児に豊かな経験や活動を与えたのである。

しかるに、従来の形式的・伝統的指導計画においては、絶えず直線的な方法で、科学（自然領域）の単元の部分として表わされる。

例えば、昆虫のクモの生態を観察させる場合には、



という指導の順序となる。

これらは、ある特定の学習目標に導くために、教師によって計画された活動にそって保育されるのである。

しかし、非直線的な指導計画 (Nonlinear Curriculum) ともいえるクモや、かたつむり、木の葉・木の実についての指導事例においては、教師は幼児の話し合いの技術を促進させるための発問を試み、計画の枠組を提供したり、幼児のために次に続く活動を提供したり、幼児が何を学びたかったかとか、仕事の取り組み方を幼児に決定させる援助をしたりするだけである。

教師は、先頭にたって何も活動はしなかったが、その代り、幼児の興味や技術を援助してやり、幼児の創造性に、適当に活気を与えるものについて教育的な推測を行なったのである。

このようにして、幼児の経験や活動の範囲を拡大していったのである。

例えば、母の日の行事を取り上げてみよう。

そのなかの活動としては、母についての話し合い、母親の顔を描く、お母さんの歌をうたう、プレゼント作りをするなどの一連の活動が連続的に浮び上る。

けれども果してこのような活動を通して、「お母さんの仕事に関心をもたせ、感謝の気持を育てるようにさせる」というねらいを達成することができかどうか、また、ねらいを達成するための効果的な活動であるのかは疑問である。

日常の保育のなかで、母親の存在に気づかせ、そのなかで、親愛、尊敬、感謝の情を育てていくことが大切であることはいうまでもない。

それには、日常の保育における適確な発問、示唆、助言、環境構成などによる幼児の自主的・主体的な活動への参加によって、はじめて本来的なねらいが達成できるのである。

幼児の活動そのものを教科学習的に扱うのではなく、遊びとして、遊びのなかで、幼児が充分に楽しみながらあらゆる範囲にわたり総合化された活動を行なうことが大切なのである。

コウウィンによれば、教師が、幼児が最良に学んでいると確信できる指導計画を作成する場合には、次のような五つの点に留意することが必要である。^④

- (一) 一人ひとりの幼児の興味や能力を生かすこと。
- (二) 幼児の活動的で具体的な経験を生かすこと。
- (三) 保育内容の六領域にわたる総合的な指導を心がけて、各領域別の範囲や題材の配列などによって、抱束され

ないようにすること。

(四) 幼児が、実験によって、観察したり、試行したり、調整したりすることによって習得するように思考させること。

(五) 幼児相互間の横に広がる経験によって、つまり、同年齢段階の幼児同志の経験だけでは、ひんばんに繰り返されるとしても、習得には十分ではないことが多い。それ故、教師の側では、垂直的な経験すなわち、年長児との経験も用意することによって、同年齢の幼児同士の経験の深化や拡充や補充をはかつていく必要がある。ところで、幼稚園教育要領において、

具体的な指導のねらいを明確にし、幼児の生活経験に即し、その興味や欲求を生かして、各方面にわたる豊かな経験や活動を行わせるようにすること。

とあるが、教師は、幼児の実態を鑑み、自然発生的に生じた活動や、教師の意図的活動にかかわらず、「何を身につけさせたいのか」「何のために指導するのか」という指導のねらいを明確に持つことが、幼児の豊かな経験や活動を生じさせることができるのであるが、高杉自子は豊かな経験や活動を達成するために、次のような留意点をあげている。^⑤

- (一) 適切なねらいが明確にとらえられていること。即ち、幼児の発達課題がはっきりしていること。
- (二) 幼児が十分に身体を動かしてねらいが体得できる経験や活動を選ぶこと。
- (三) 幼児自身が、自分の力で進められる活動であること。もちろん教師の援助は得るとしても。
- (四) 幼児にとって楽しい活動とほどんなことをかを明確にすること。活動するなかで楽しさを味わったり、必要感を感じとることができること。

- (四) 幼児の生活のなかで、ごく自然な形で行なわれるものであること。
- (六) 幼児が活動するなかで、課題や、イメージや、幼児なりの目的が明確に持てて、意欲的に取り組めるものであること。

(七) 心のゆさぶりを受け、知的好奇心を持ち、新しさやある程度の困難さや未知の面があり、挑戦する魅力を持つものであること。

(八) 幼児が活動するなかで、新しいわざを獲得したい要求がでるものであること。

(九) 幼児が今まで経験したなかで得た力を使ったり、統合して取り組めるものであること。

(十) 幼児が自分の力や友だちと力を合わせて努力し、工夫できる見通しがもてるものであること。また、その結果がわかり充分実感を得ることができること。

したがって、指導計画における幼児の豊かな経験や活動は、教師の幼児への志向と、経験や活動を幼児とともに選択することにより達成できるのである。

五、豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成についての自己評価法

ワッサーマンは、豊かな人間性の開発をめざす指導計画を作成する場合の自己評価方法を、次に示すような九つの段階に分類して提案している。^⑥

(一) 学習成果を記入すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

- ① 私は成し遂げるために何を望むか。

② 私はこの経験の結果として、幼児がどんなに違っているかを望むか。

③ このような成果は、幼児の要求とどのように関係しているのか。

④ 何故、この要求が私にとって重要なのか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① あなたが幼児に何を学ばせたいかについて、本当にはつきりさせよ。

② このような質問のそれぞれに、あなたの考え方を明らかにすることを援助する友人を得よ。

(二) 社会からの要求を自分の課題として確認すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

① 地域社会、教育委員会、保護者、園長などによって、どのような要求が私になされているか。

② どれくらいの時間を仕事をするために費したか。

③ どんな資源が利用可能か。

④ 私は行政からの支援を受けているか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① 資料を得ることによって見つけ出しなさい。園長や保護者や教育委員会に質問しなさい。

② 教材を見つけ出す助けとなる、学区にいる人々（人的資源）に尋ねてみなさい。

③ 園長と話し合う時、起承転結の段階を踏んだ方法であなたの考えを述べなさい。もし、あなたの考えが明確

で、教育的に健全なものであるならば、園長の概念を軽減できるよい機会となる。

(三) 物質的環境として必要なものの見はからいをする。

次のような質問を自分に問うてみる。

① 保育室はどのように教育的にみて整えられているか。

② どんな設備、備品、収納庫が必要であるか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① 保育室の空間を使用するについてのアイデアを「児童の学習環境の改善」〔Change for Children〕という本で調べなさい。

② 設備と備品については、友人の屋根裏部屋や地下室を探してみなさい。また、ガラクタ市やのみの市にも適当な教材がある。

③ 他の教師や指導主事に相談しなさい。創造的にどのように利用すればよいのかの良い案を得られるだろう。

(四) 仕事をするのに必要な保育室での実践をよく見極めること。

次のような質問を自分に問うてみる。

① 私が学習技術を高めるのに必要とする保育技術とは何であるか。

② 私は保育技術での能力をもっているか。

③ もし私が保育技術が必要とするならば、どこに援助を求めることができるか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① もしあなたの保育技術が主として、教師指導型のものであるならば、あなたの資料（自分で作った教材）を準備しなさい。そうすれば、首尾一貫した簡潔なものになるだろう。

② もしあなたの保育技術が探求志向型であるならば、幼児の思考レベルを上げる型のものであるかどうかをみ

るめに、発問を検討してみなさい。

- ③ 幼児と話し合ってみなさい。そして、テープレコーダーであなた自身が、幼児と話し合っていることを詳細に聞いてみなさい。

あなたのテープを、あなたが幼児と交流している実際の仕方を得るために、話し合いの記録を開いてみなさい。

(五) 幼児に志向すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

- ① 私は幼児を学習に取り組ませるために、どんな学習の進歩に役立つものを用意しなければならないか。
② 私は幼児に志向するために、どんな手順を用いているか。
③ 私はこれらの手順を注意深く考えぬいたり工夫したか。
④ 私は保育の最初の不協和音を処理することができるか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

- ① 幼児の新しい経験を指導するために、明らかな計画をもっているかを確かめなさい。
② 手のやける幼児を取り扱うことを助けてくれる、特別な技術について考えなさい。
③ 問題の幼児を援助するために、特に初期の段階において、あなた自身自由にしておきなさい。

(六) 教材を選択すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

- ① 私は保育をするためにどんな教材を必要とするか。

幼児の豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成についての一考察

② 市販のどんな教材が保育に利用できるか。

③ 私はどんな教材を用意しなければならないか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① 幼稚園の地下室や収納庫を調べさせる職員を雇用して、気をつけて見させておきなさい。

② 出版業社の目録を検討しなさい。

③ 教材を借りるため、幼稚園の資源（図書館、学習資料センター、教員センター）を利用しなさい。

④ 無料や安価で手に入る教材目録について、他の教師と話をしなさい。

⑤ 教科書のなかの資料一覧表を利用しなさい。

⑥ 他園の保育室を訪れることができる研修日を設けて、他園の教師が使っている教材について討議しなさい。

(七) 予想される学習経験を組織化すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

① どのような内容を含んだらよいか。

② どのように内容を組織化するか。

③ 私は幼児を考慮するのに、どのような仕方でもって個々の要求やねらいに関連した選択をさせているか。

④ 私はどのようにして、幼児自身の学習ペースを伸ばすために考慮しているか。

⑤ 私は生活指導問題をどのように処理しているか。

⑥ 私はどのようにして、思考が伸びていくのを保証することができるか。

⑦ 私は援助を必要とするならば、どこへ援助を求めて向っていくことができるか。

⑧ どの部分の経験が教師の指導を必要とされているか。

⑨ 私はどのような仕方で幼児が主導していく学習への参加を許すのか。

⑩ どの領域において、応援教師は保育への参加を求められているか。

この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① あなたの研究領域での実際に優れたテキストを使いなさい。そうすれば、あなたが内容を決定するための助けとなるだろう。

② 講義法とは別の内容を組織化する討議法、質問法などをよく調べなさい。

③ 幼児の選択と、幼児のペースで学習していく可能性を増大していくいくつかの指導技術と方針をたてなさい。

④ 幼児が困惑しそうなことについて、いくつかの予測をしておきなさい。そして、どのように直面する困惑を扱うかについて、前もって計画しておきなさい。

⑤ あなたの保育のなかへ、幼児が思考するいくつかの活動を織り込んでおきなさい。

(八) 保育室での観察から毎日の再点検をすること。

次のような質問を自分に問うてみる。

① 私は幼児の学習経験が成功であるということの根拠として、何をみつけることができるか。

② もし私が幼児の学習経験が貧弱であると感じたら、何をすればよいか。

③ 私は学習経験に興味を示さない幼児について何をすればよいか。

④ 私は学習経験が余りにも困難であったり、上すべりであるとする幼児については何をすればよいか。

⑤ 私は幼児が学習したりするための時間を許す自信と勇氣をもっているか。

幼児の豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成についての一考察

⑥ 指導計画がうまく進まないならば、私は幼児を非難するのか、また教師用の指導書を放り出すのか。この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。

① あなたが記録した学習成果を覚えておきなさい。学習の熟達と同じくらい、行動記録を検討しなさい。
② 次のことを自分に問いかけることを忘れてはいけない。幼児は楽しみながら学習したか。意欲的に取り組んでいたか。保育室に来ることを喜んでいるか。よく一緒に行動するか。

③ 幼児の欠点を見つけ出し診断しようとしなさい。幼児が考えている筋道がうまくいっていないのではと問うてみなさい。もし、現実に保育の現場で行なっていることが、幼児の誰もが実際に興味を持っていないし、好んでいないならば、今やっていることの全てを投げ出す勇気を持ちなさい。

④ 幼児自身が氣にとめている事柄がある場合は、幼児は興味を示さないかも知れない。幼児の思考をはつきりさせなさい。そして、幼児の無関心が実際のものであるかどうかを見つけ出すことを試みなさい。幼児のためにとるべきもう一つの他の経験を示すために、幼児に尋ねてみなさい。

全ての幼児をして、教師の考えていることを好きにさせようとする束縛から解放させることは、重要なことである。

⑤ より一層の学習活動が必要としている幼児に対するいくつかの指導方針や方法をたてなさい。

⑥ あらゆることがよく解らない教職への就職当初の日々において、勇気づけてくれたり、支えとなってくれる友人や同僚を見つけないさい。多分、第三者の展望をもってあなたを助けるだろう。

(九) 学習成果を評価すること。

次のような質問を自分に問うてみる。

- ① 私は自分の目標が達成されたものとして、どのような証拠を受け入れるのか。
 - ② 私は何を評価するのか。
 - ③ 私はどんな方法で評価するのか。
- この段階の実行を容易にすることを助ける手段として、次の留意点をあげている。
- ① ペーパーテストと同じくらい、幼児の行爲を検討しなさい。
 - ② あなたは、期待していたことが、現実に起ったかどうかを評価して確かめなさい。
 - ③ あなたの評価方法が、保育と幼児の学習についてのあなたの価値と矛盾していないかどうかを確かめなさい。
- ワッサーマンによれば、以上のような自己評価方法によって、豊かな人間性の開発をめざす指導計画を発達・改善していくのである。

六、おわりに

「大掃除をする」という指導案を作成して保育を行おうと試みたところ、たまたま教材室の棚の上から、古い紙テープがでてきて大喜びとなり、幼児は、その紙テープを足にまいたり、胴に結んだり、園庭へ出て風になびかせたりして、一日目は結局、紙テープあそびになり、二日目は、散乱した紙テープを片付け、三日目によく当初の予定の「大掃除」の活動を終えることができた。このような例は、幼稚園においてよくみうけられることである。教師は、一斉保育がよいか、自由保育がよいかというような保育形態を問題とするのではなく、それぞれにねらいがあることを認めて、幼児の活動の多様性を伸ばしてやることが大切である。

事前の計画の必要性は勿論のことであるがあくまでも予想される活動としての仮説であり、指導実践のなかで、

幼児の状態、天候、突発する活動などにより、活動が変化するのが当然であり、幼児の意外な發展性や創造性による予想されない活動を考慮し、取り入れていける、単なる思いつきでない柔軟な指導性が教師に求められる。

単元活動、主題などに振りまわされて、指導案が先走ったりしないことや、指導案や指導目標を重視しすぎる余り、幼児の実態を見失なわないようにすることが大切である。また、指導計画を作成したからといって、幼児の実態を無視して活動させることは、厳しく戒められなければならない。

経験や活動の主体はあくまでも幼児自身であり、幼児の欲求や興味・関心が効果的に生かされなければならない。クモの指導事例の場合は、教師は、幼児の自然発生的な活動を適時にとらえて、より豊かな経験や活動へと發展させたが、幼児の実態にあった活動と、教師による指導のねらいと方向づけが、十分に調和されている場合には、豊かな経験や活動を産み出すことができるのである。

教師は、ここにあげられたような、豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成についての自己評価方法をつねに実践し、その指導を反省して幼児のために、幼児と一緒に、幼児を通じて保育することが大切である。

幼児の豊かな人間性の開発をめざす指導計画の作成は、全ての教師にとって、あらゆる仕事のなかで、最も厳しく、かつ複雑な仕事である。しかしながら、幼児と一緒に作成した指導計画は、幼児の生活における魅力と興味を高めるのに最も役立つものである。

注

① お茶の水女子大学文教育学部附属幼稚園著「教育課程」

日本幼稚園協会刊 一九六四年 一頁

② Selma Wasserman "Teachers Curriculum Ma-

kers" in "Childhood Education" 1976 p. 242

③ Rebecca Corwin, George E. Hein and Diane Levin "Weaving Curriculum Webs" in "Child-

hood Education" 1976 p. 248~249

④ ~ p. 251

⑤ 高杉自子著「幼児教育カリキュラム構成の着眼点」
(『児童心理』十二月臨時増刊号) 金子書房 一九七九

参考文献

- (1) 坂元彦太郎著「幼児教育課程新論」フレーベル館 一九六六年
- (2) 坂元彦太郎著「幼稚園教育要領」フレーベル館 一九六八年
- (3) 教師養成研究会著「幼児の教育課程」学芸図書 一九七四年
- (4) 村上恭治、亀ヶ谷三郎著「幼稚園教育における教育課程の構造化」酒井書店 一九七六年
- (5) 宮内孝編「長期間の指導計画とその展開」ひかりのくに 一九七七年
- (6) 舟木哲郎著「カリキュラムの考え方と作り方」ひかりのくに 一九七七年
- (7) 三木安正著「年間保育計画」フレーベル館 一九七八年
- (8) 安藤寿美江著「教育課程と指導計画」フレーベル館 一九七八年

年 一七四〜一七五頁

⑥ Selma Wasserman "Teachers Curriculum Makers" in "Childhood Education" 1976 p. 244~247

- (9) 西久保礼造著「幼児教育のための教育課程の編成と評価」ぎょうせい 一九七八年
- (10) 亀ヶ谷三郎著「幼稚園における保育の計画」学苑社 一九七八年
- (11) 岡田正章、阿部明子著「カリキュラムのたて方、生かし方」第一法規 一九七八年
- (12) 西久保礼造、菊地明子著「幼児の指導・自由な活動」ぎょうせい 一九七八年
- (13) 岡田正章他編「総論・望ましい経験や活動とは」『望ましい経験や活動シリーズ』第一巻) チャイルド本社 一九七九年
- (14) 久保田浩著「幼児教育の計画——構造とその展開——」誠文堂新光社 一九七九年
- (15) 大場牧夫他著「総合とは何だろう」(『これからの保育』六) フレーベル館 一九七九年